

## ◆アイランドシティ・未来フォーラム委員意見整理表(これまでの委員からの主な意見)

H23.9.17時点

### 1. まちの魅力を向上させるための都市機能

- ★アイランドシティの都市機能を考える上で、福岡市の都市機能の強みを明確にするのが非常に重要である。(土屋委員)
- ★アイランドシティでは福岡の強みを大きく育て、アジアの魅力ある中心都市として認知されるように人・物・金・情報が集まる貴重なエリアとしての位置づけをすべき。(土屋委員)
- ★港湾づくりとまちづくりとあまり分離せずに、市民が港湾の中に入れるような、あるいは港湾の人たちが市民の中に融合できるようなことを考えるのも一つの課題(森委員)
- ★みなとづくりとまちづくりが、あまりにも画然と分かれ過ぎているという感じがする。(海老井委員)
- ★人が住む、あるいは働くという時に、優しい、人間らしい気持ちということとの調和が必要であり、二つの機能をきちっと強化しながらも、そこを調和させる理念が何であるのかを議論すべき。(海老井委員)
- ★福岡市は九州の中心というだけでなく、日本海側における日本の中心、そして、アジアの一つの中心という自覚を持って将来を設計すべき。(伊東委員)
- ★この地区を未来の福岡の顔になるような、もしくはアジアの一つの顔になるような地域にしなければ開発をした意味はない。(伊東委員)
- ★アイランドシティという場所とその機能が福岡の一つの顔になり、その中に市民と県民と地域の人たちが、もしくはこのエリアの人たちが集うような一つの施設、施設意識、情報発信ゾーンというものをぜひ作っていただきたい。(伊東委員)
- ★アイランドシティを福岡の今のどこの地域よりも先端を行くようなモデル的な整備をするべき。(長沼委員)
- ★アジアとの貿易によって日本を救うというのは福岡地域における1,000年を超えるテーマであり、国際都市福岡は1,000年来の性格である。(伊東委員)
- ★歴史的な背景をアイランドシティに移殖しないと、博多の町、福岡の町の文化と融和しないし、アジアの中で退潮する日本の存在感の再生に貢献できない。(伊東委員)
- ★特記すべきは、照葉小中一貫校で、中学生が小学生に教えるなどの取り組みを見ると、自分のこどもをこういう学校に通わせたいという気がしてくる。(平山委員)
- ★戸建て住宅ゾーンは、鎮守の森とか、ボンエルフ的な非常に農村の庭的な人間の心に訴えかけるようなまちづくりをしている。(平山委員)
- ★物流施設や新産業について、どういう産業を根づかせるのかということが課題。(増山委員)
- ★産業関係のキーワードとしてはアジア、あるいは後背地を抱えた九州の産業の活性化に、このエリアをどう生かせるのかといったことがテーマである。(土屋委員)
- ★アジアとか健康福祉がキーワードであり、その辺を実際のビジネスにどう結びつけていくのか。今後、何を機能として整備していけばうまくいくのかを考える必要がある。(増山委員)
- ★産業集積では、やはりアジアビジネスという部分が最も着目すべき点。(長沼委員)
- ★グローバル化のビジネスの中で、日本との接点を持っていきたいという多くの方がいる中で、日本初進出の外国企業、外資系企業などを対象にした条件整備など、センター地区、産業ゾーンについては、もう少し細かく業態分野というものを考えるべき。(長沼委員)
- ★国内外の研究機関、開発型の企業あるいは戦略産業のアジア展開の基地にすること。(土屋委員)
- ★知的産業を集積し、いろいろな情報をそこに集めて発信したりすることは大型な投資がなくてもできる。(平山委員)

★アイランドシティの一番の特色は、やはり博多港という存在。横の港ゾーンは非常に高度な機能を持っているが、それも将来性がどうなるのか、その将来性が住宅ゾーンにどういう影響を与えてくるか、そこら辺の姿を描いてやるのが一番必要。(貫委員)

★日本海をどう利用するか、博多港をどう活用するかという観点から考えたときに、ここにこういう企業が立地すれば非常に将来性があるとか、そんなビジョンをぜひ描くべき。(貫委員)

★他都市の参考事例で、どういった先行的な公共投資がなされたのか。人口や産業の集積等がどの程度進めば、一般的な公共投資がなされるのか。(出口委員長)

★高速道路の早期乗り入れ、鉄道系の実現、あるいは航空便が非常に重要なファクターであり、アジア路線の拡大と滑走路の増設の早期実現が求められる。(土屋委員)

★ほかの国では、まず先に道路や地下鉄なりを通して。そうしたときに、今の鉄道をアイランドに持ってくるとしたら、何人だったらペイするののかというのが一番聞きたい。特にコンベンションとか人が集まる仕組みをつくったときに、大量に、しかも定時で運べる仕組みが要る。どれくらいの人数が動いたら地下鉄ができるのか教えてもらいたい。(甲斐委員)

★こども病院の移転をきっかけとして、ここが博多、福岡のランドマークになるような場所にすべき。(トコ委員)

★こども病院については、アジアからも難病の子供たちを受入れるようなアジアを代表するこども病院をつくるべき。(長沼委員)

★世界一のこども病院を作るために、施設単体だけではなく、こども病院をサポートしていく機能や施設が周辺に立地することが必要である。(出口委員長)

★こども病院は、非常に高度な難しい病気の子供をアジアからも受け入れるような病院になるべきであり、難病や長期入院の子供たちが過ごしやすいようにするとともに、付き添う家族や見舞い客、ボランティアの方も集まるので、一つの健康、医療、福祉という中で、核になっていくべき。(海老井委員)

★成人を相手にした病院も近くに併設されるべきで、住民も高齢化していくわけで、高齢者を対象にした施設やリハビリテーションセンターとか総合的な医療を核にしたいろいろなことが考えられる。また、付随して、滞在型の質のいい、豪華ではないが、安心して滞在できるような宿泊施設なども必要。(海老井委員)

★こども病院を核とした、医療に特化したまちづくりも考えられ、非常にいい医療ができ、外国人も住み、外国人の医師や看護師も他の地区に比べて福岡が一番雇ってやっていると、そういう特別な目玉になるようなものができるか。(甲斐委員)

★こども病院はとても魅力的で、アジアから難病の子供を受け入れ、福岡市のこども病院が日本の先駆的な役割を果たせば、すばらしいところになっていく。(平山委員)

★例えば、コンベンションセンターは、世界において、今需要がとてつもなく増大しており、そういう施設を、今までにないコンベンションとして、文化とか環境とかを考えるようなハイブリッド施設として考えるというのも一つの手ではないか。(伊東委員)

★見本市会場だけでは、公共投資の補助金というのは出ないはずで、例えば文化機能や県立美術館や、さまざまなメディアセンター、そういうものをハイブリッドにした形の新しい施設概念とネットワーク概念をもたらす機能があればその面での可能性もある。(伊東委員)

★コンベンションセンターを狭い意味での見本市会場と考えるのではなく、物についている情報を集積、管理、発信することができる。(伊東委員)

★例えばコンベンションセンターがデータセンターと一緒に、コンテンツ・ロジスティクスを担う新しい形のコンベンションセンターができれば、世界にとって独特の位置を占めることになる。(伊東委員)

★アジアの中心にふさわしい10万平米クラスの大規模コンベンション及び展示場を設置し、学術交流、産業交流あるいはビジネス商談の拠点とするというような大きな核づくりが必要。(土屋委員)

★福岡という町がアジアの中でどういう位置で重要性を占めることができるかというとき、情報というものは欠かせない。(伊東委員)

★物産にはすべて情報がついており、それを統合してロジスティクスというものを管理しながら紹介するのは、すべての情報をこの福岡が得ることになる。(伊東委員)

★博多港には、歴史的な流通、物資、物流に関するハブ機能があり、今、アジアでは、コンテンツ部門に関しては、コンピューターグラフィックス、アニメを中心とした日本のコンテンツが求められている。(伊東委員)

★コンテナを中心とした物流というダイナミズム、エネルギー、そしてその輸出入される商品を通じての情報交換ということをまちのダイナミズムにつなげていくような、福岡市全体のダイナミズムを見せるような中核文化経済施設を策定することが最良である。(伊東委員)

★アイランドシティの都市機能は「住みたいまち」、「働きたいまち」、「あそこだけは一回行ってみたい・人のあつまるまち」の三つに分けられる。(甲斐委員)

★今回の震災で、アジア、中国との交流を含め、福岡の立つ位置が大きく変わり、今こそ地の利を生かすときである。(甲斐委員)

★福岡の都市機能、西のゲートウェイを支えるだけの都市機能をいかに充実強化するかという点で、博多湾の機能をもう一回しっかりと見直す必要がある。(貫委員)

★福岡、九州が日本の再興、復興を担う場所ということでアイランドシティを考える必要があり、港湾機能は日本海側の港としてもっと充実させなければならない。(甲斐委員)

★特にまちづくりエリアでは、博多湾全体、福岡市全体を見たときの都市機能の充実強化として、どういう機能をここに持たせられるかを十分に検討する必要がある。(貫委員)

★ICと箱崎を物流の港に位置づけ、中央埠頭と須崎、特に中央埠頭は人の港ということになっているが、今そこにあるものをすべてICのほうに持っていくということが必要。コンベンションは中央埠頭で充実する。機能として人と物とを分けるということが必要。(小俣委員)

★みなとづくりエリアの部分に関しては、点在しているそれぞれのふ頭を集積できるかどうかなど、さまざまな検証をしていくべきである。(長沼委員)

## 2. まちづくりを先導するためのプロジェクト

★例えば青果市場が出てきたときに、魚市場とかをセットにして、道の駅を毎日やりながらイベントをやって、近隣の町の人が毎日そこに魚介類や青果を買いに来るなど、常に誰かがまちに来るような仕組みが欲しい。(甲斐委員)

★ICの充実、楽しさという面で、大同青果が出るという話を聞いているが、大同青果だけでなく、花市場とか食肉とか、おいしい食べ物、一次産品が集まるようなICマルシェのようなことを考えて欲しい。(小俣委員)

★アイランドシティの当初の構想として、干潟を残して、こういう島形式にさせていただいたことは良かったと思う。そういうことも含めて、志賀島漁港が近くにあるなどの立地特性をアイランドシティとどうリンクさせていくかを考えたい。(森委員)

★アイランドシティにおけるイベントや活動を相互に連携し、まとめて大きな力になっていくようなコーディネートが必要であり、様々なイベントの相互連携を深め、相乗効果を上げていくような組織や拠点の整備が課題。(出口委員長)

★三つの異なったセンター地区、グリーンベルト、住宅ゾーンについて何か一つのテーマを考えるに当たって、この住宅ゾーンをある種の産業圏としてとらえ、三つのゾーンの異なったフィールドをつなげていくような産業集積が必要。(伊東委員)

★例えば、新しい蓄電池としてプラスチックに帯電させる充電技術があるが、地下にこの蓄電池を埋めて電気自動車(バス)を走らせるなど、実験的な要素を組み込みながら、住民の幸せと産業の将来とを重ね合わせるようなハイブリッドな考え方というのが重要。(伊東委員)

★物流機能をはじめ、マーケティングとかエンジニアリングセンターみたいな機能をここに立地して、フリーゾーンとしての規制緩和や税制・金融面でのサポートし、そのためのワンストップサービス機能を備えたエンジニアリングパークみたいなものを建設して、そこに誘致する。(土屋委員)

### 3. 企業等のニーズに対応した立地促進等

- ★現在、総合特区制度が募集されているので、県と一緒に認定をとって、そういった諸制度をフルに活用し、入居者や立地者の魅力的な税制などのインセンティブをつくることは極めて重要な施策。(土屋委員)
- ★福岡県と一緒にベンチャー企業とか中小企業、海外も含めた中小企業が集まり、その成長センターとしての海外投資家も呼び込む仕組みをつくる必要がある。(土屋委員)
- ★九大や福大を卒業したという留学生や就学生が卒業し、小さな貿易会社を興した人や中国と貿易をしたという人を対象に、国内外を問わず、起業しやすいまちとか、大手の商社とかメーカーに勤めて、海外、東京、関西で働いていた人をこちに引っ張ってきて、彼らが50代で起業できるような仕組が欲しい。(甲斐委員)
- ★福岡市だけでなく、福岡県のアジア特区など、県と福岡市と国がばらばらに考えるのではなくて、もう少し国と県、県と市で考える必要がある。(甲斐委員)
- ★海外からの呼び込みでビザの便宜を図ったり、移住者に対する住環境、あるいは外国人の子供の教育機関を整備するといったことも必要。(土屋委員)
- ★立地促進は、特典やインセンティブを与えて、人、物、金を呼び込むという構図を作り、都市全体で回収するといった発想や福岡全体の経済圏という大きなエリアで考えるということが必要。(土屋委員)
- ★まず土地を買ってもらい、賃貸ができるということも必要であり、民間の進出を誘発するためにももう少し前広に公共投資をして引っ張っていくべき。(甲斐委員)
- ★開発利益は、直接的な分譲から回収するのではなく、固定資産税や住民税等、トータルで回収するという考え方をとる必要がある。(平山委員)
- ★投資の回収は不動産の売却というような形ではなくて、都市圏全体の税収で賄うぐらいの長期的な発想が必要。(土屋委員)
- ★諸施策あるいは仕組み、思い切ったインフラ投資というのが、そのエリアの優位性をつくるのに欠かせない。(土屋委員)
- ★起債をして分譲で返すといったシナリオで産業立地が成り立つのかどうか、もっと違う発想が要る。(土屋委員)
- ★分譲だけでなく、長期的に証券化による流動化等も使い、事業用定期借地など事業者が一度に多額の投資をせずに済む仕掛けが必要。(平山委員)
- ★土地は売るだけでなく、使うために借りられるようにし、所有権を切り売りするという発想、何十年分売っているという発想が必要。(平山委員)
- ★市が誘導するために、最初から分譲するのではなく、一定の期間、定期借地権で土地を貸すなりして建物や施設を建て、ある程度たったら買い取るなど、資金的なスキームを作り、そういう流動化のスキームを使いながらやるということも可能である。(平山委員)
- ★不動産の価格というのは、利用に応じた価格というのが出てくるわけだが、埋立地というのはある程度造成原価が決まっているため、その中でミスマッチが起きている。(平山委員)
- ★複合・交流ゾーンと新産業・研究開発ゾーンがなかなか売れないのは土地が高過ぎるということだろうが、それを克服するためには補助金の問題がある。(貫委員)
- ★土地の鑑定価格と実勢価格がどうなのか、そのギャップが民間事業者が出ていくときのリスクになるから、インセンティブというのは充実しないといけない。(小俣委員)
- ★立地交付金や補助金のさらなる充実が不可欠。(小俣委員)
- ★この土地を買った場合に将来値上がりするとか、あるいはここに企業立地した場合に収益が非常に上がるというビジョンみたいなものがないとなかなか投資がない。(貫委員)

#### 4. 市民・企業等への理解促進策

★小学生が中学校に入学して今年初めて卒業生が出た。子供たちは着実にこのアイランドシティがふるさとという形で卒業しているという実態がある。(森委員)

★アイランドシティのネガティブイメージを払拭したい。人工島という言葉は避け、アイランドシティ、あるいは居住区は照葉と呼んでもらいたい。(村田委員)

★このフォーラムでは、未来を語るという中で、人工島のマイナスイメージを払拭し、プラスイメージへと作っていく会にしたい。(海老井委員)

★アイランドシティで昨年実施したツール・ド・フクオカでは、多くの参加者に、照葉小中学校やアイランドシティ中央公園、照葉のまちづくりなど、アイランドシティの素晴らしさを知ってもらった。(長沼委員)

★こども病院の立地はまちのイメージに随分プラスになる。全国から子供の患者が来るので一つの核になる施設。(大庭委員)

★ブランド名は大事で、神戸の六甲アイランドとか、横浜のみなとみらい並みのブランドをいかに確立していくか、そういう視点で、福岡市民全体でブランド名を上げていこうというような形で議論が進行されていくと住民としても大変喜ばしい。(森委員)

★住民としては、利便性とか生活環境で言うと結構満足しており、住環境としてネガティブなものを感じていない。(村田委員)

★那の津港も須崎も含めて、福岡は全部埋め立てでやってきた。これは財産、宝物であり、堂々たる歴史である。航路を作るために浚渫し、その土砂をアイランドシティの埋立てに使ったことも含めて広報PRすべき。(小俣委員)

★地政学的には、博多というのは間違いなく日本の玄関であり、その最高の所がアイランドシティである。日本を決めるのはここであるということも言え、そういうことも情報発信していく必要がある。(小俣委員)

★国際コンテナターミナルを実際に見ると、港での仕事、コンテナ、貨物といった仕事へのイメージが随分変わる。港湾機能の理解・促進を図るための教育の場(機会)として活用すべき。(海老井委員)

★市民として知られていないのが、みなとづくりエリアのコンテナふ頭である。物は世界からやってきて、博多からまた積まれていくというように、世界とつながっているということを見せるべきである。(トコ委員)

★アイランドシティのマイナスイメージを払拭するためには市役所の内部から情報発信するだけでは不十分であり、地元が中心になって現場に居住環境の良さを情報発信する場が必要。アイランドシティに情報発信やまちづくりの拠点機能を持つ施設を作る必要がある。(出口委員長)

#### 5. 他機関との協力・連携

★現在、総合特区制度が募集されているので、県と一緒に認定をとって、そういった諸制度をフルに活用し、入居者や立地者の魅力的な税制などのインセンティブをつくることは極めて重要な施策。(土屋委員)  
※再掲(立地促進策)

★福岡県と一緒にベンチャー企業とか中小企業、海外も含めた中小企業が集まり、その成長センターとしての海外投資家も呼び込む仕組みをつくる必要がある。(土屋委員) ※再掲(立地促進策)

★福岡市だけでなく、福岡県のアジア特区など、県と福岡市と国がばらばらに考えるのではなくて、もう少し国と県、県と市で考える必要がある。(甲斐委員) ※再掲(立地促進策)

## 6. その他

★商工会議所の都市政策委員会でも、10年後、20年後の福岡のあるべき姿というのをまとめつつある。いろいろなところで福岡の将来像について検討段階にあると思うので、福岡市で集約し、福岡市のあるべき姿、その中でアイランドの位置づけをどうするんだというつながりが重要。(土屋委員)

★今回の震災後、日本のあらゆる機能が分散されてくる中で、その受け皿として絵が描けるのがアイランドシティであり、今までのアイランドシティの位置づけは、立つ位置が大きく変わってくる。(甲斐委員)

★震災後、日本海側の港の重要性が認識され、日本海側の港の機能は博多港が一番であり、博多のまちがそういう機能を果たせば、道州制・九州府の首都としての福岡・アイランドシティという位置づけになっていく。(甲斐委員)

★福岡が目指す未来像を描き、その中でアイランドシティも含めたウォーターフロントのあの部分をどのようにゾーニングし、絵を描いていくのかの議論が必要である。アイランドシティのこれだけの立地条件、すばらしい場所にあるこの財産を生かすためには、10年後、20年後、30年後に完成するような形で、福岡にどういう都市が生まれてくるのかも含めて、アイランドシティの活用、未来を考えなくてはいけない。(青木委員)

★福岡県全体や九州の中で福岡はどういう役割を担うのか、震災後の日本の全体の経済を見渡したときに、福岡は日本の中でどういうふうにかを担っていくのかの視点も必要であり、ここに最大の価値を創出して福岡の未来のために生かし、全体を見渡したときに貴重な土地につながっていくような議論をすべき。(青木委員)

★福岡市では、第9次総合計画の策定の作業に着手しているが、アイランドシティの位置づけは総合計画とも関連してくる。(出口委員長)

★市全体あるいは博多湾エリア全体の中での未来像の中で、このアイランドシティを貴重な財産としてどう位置づけるかというのが課題であり、提言の中に盛り込んでいくべき。(出口委員長)

★全体を通じてしなければいけない議論はアイランドシティの性格づけである。(伊東委員)

★人の生活に落とし込むときはどういうフレームにするか、どういう産業が適正か、福岡の中で大事な位置を占めるところというのは、各回のテーマを絞って討議していくほうがいい。(伊東委員)

★アイランドシティの未来を語る時、原点に戻って、一体アイランドをどういうふう位置づけるのか、そのコンセプトを全体的にもう一回確認した上で議論を進めるべき。これからのアイランドの未来を考えていくときの議論の立脚点を整理する必要がある。(海老井委員)

★税収を上げるとかいう部分と、まちの人が生活していくという話はずれる部分があるので、まちづくりのために何が必要なのかという部分と商業ゾーンについては別に議論したほうがいい。(大庭委員)

★都市の未来像は福岡市や福岡県の行政全体の話であり、今はこのアイランド一つでさえ開発する力がない中で、その開発できる力をどうやって呼び寄せるかがメインであり、現実的にこの土地を活用することによって少しでも福岡市の機能がアップするような方策を考えていかないと議論はまとまらない。(貴委員)

★アイランドシティの強みや弱みを整理されていないので、グリーンアイランドの創造というこのコンセプトから、最後の新産業研究開発ゾーンに集積を進める分野、これがロジカルにつながっていない、あるいはどうもしっくり来ないということになっている。(出口委員長)

★アイランドシティの治安情勢は非常にいいが、犯罪が起きると、非常にまちのイメージがダウンするので、そういうことがないように、犯罪の起きにくい社会づくりを推進したい。(安藤委員)

★犯罪が起きない環境づくりとして、防犯カメラは非常に効果があり、アイランドシティの橋や都市高速道路の出口に防犯カメラを設置すると犯罪抑止につながり、何かあった場合には警察としては捜査がしやすいので設置して欲しい。(安藤委員)

★いわゆる若い人の町といって始まったものが、30年後になると高齢者の町になるということもあり、活気あるまちとして今後何十年もあり続けるためにはどうしたらいいかも考えていく必要がある。(村田委員)

★全体が若い町であり、小中学生が元気なのはいいが、高校生や大学生、あるいは大人が住む成熟した町にどうやって成熟させていくか。そのために、どんな人が集まってくるかということを考えながら、産業とか施設といったことを考えていく必要がある。(海老井委員)

★現在のアイランドシティは若い家族世帯が多いが、単身世帯や夫婦だけの高齢世帯なども考えたまちづくりをすると、まちとして完成されていく。(トコ委員)

★中長期的な話は、結局具体的にどうしたいのか、将来的にどんな町になるのか、さっぱり見えてこない。中長期的なこともある程度具体性を持たせて話を進めていく必要がある。(村田委員)

★百道地区は既に埋め立て事業が完了してから20年経っているが、その間、どういうふうに関が成熟してきたのか。例えば従業員数の変遷や、税収はどういうふうに関次を追って上がってきたのか、あるいは上がって、また下がったのか、下がってきたとしたら、その要因は何なのか。(出口委員長)

★住民の心意気やコミュニケーションが良く、一緒にやっていくというのを感じ、可能性というものを強く感じた。(大庭委員)

★戸建てゾーンとタワーゾーンの住民のコミュニケーションがよくとれている。(平山委員)